

柴北川プロジェクト通信 4号

平成21年11月14日(土)

1. 柴北川流域における山桜調査を実施

今回のプロジェクトにおける主要テーマの一つである「山桜資源調査と手入れ」の実施を、先月の樹医の佐藤光さんの指導のもとに、共助研からの参加6名に柴北川を愛する会の大塚会長と渡辺事務局長の参加をいただき、総勢8名の調査部隊を編成して、平成21年11月14日に実施しました。

想像以上の重労働。でも、楽しみながらの第1回山桜調査は無事終了。

午前中までは、昨日の雨も残る少しくずついた天気でしたが、柴北地区に到着するころには、格好の山桜調査日和となりました。

黒松公民館に12:30ごろ到着し、若干の事前打ち合わせと、新たに購入したナンバリングの機材(右写真)などの使い方のレクチャーを受けた後、2班構成(A班:前田、森脇、矢ヶ部)(B班:木寺、玉田、波多野)で、作業着に着替え、ヘルメットをかぶり、いざ現地へ。



まずは、手慣らし、練習の意味で、渡辺事務局長より提案で調査しやすいであろう通称「奥の院」の斜面地へ向かいました。途中、乗用車では通行できない狭隘な小道を大塚会長のミニトラックの荷台に乗り移りながら現地に13:30ごろ到着しました。が、……。確かに見通しのいい場所ではあるのですが、高低差100m、斜面傾斜45度はありそうところ。山育ち?で元気のいい森脇さんや玉田さんはじめ多の方は、渡辺さんの後をひょいひょいと追いかけていくのですが、山桜班長を仰せつかった都会育ちの私(矢ヶ部)をふくめ数名は、つかまる木々もまばらな斜面にへばりつきながら追っかけるのがやっとな。それでも、事前に作成した作業計画書に従って、GPSによる位置測定、幹周りや樹高の測定、そして、ナンバリングの作業を次々



とこなしていくことができました。途中、ヒヤ!とすることもありましたが、約1時間で28本の調査を完了。この「奥の院」の斜面には、200本以上の山桜がありそうです。ただ、次回の時は、安全ロープを上から垂らし滑りの危険をカバーし、皆さんの安全により気をつけなければと、山桜班班長として反省しています。(一番危なっかしかったのは班長本人でしたが)

2か所目は、松巖寺の裏山ということで、そちらへ移動。班長は、「しばし休憩!」とリタイアす

る中、調査団の他の皆さんは、元気良く調査を続行していただきました。話では、幹周り 180 cm もある元気な大木の山桜を発見し、だんだんとより大きな山桜を見つける宝探しの状況になったとのこと。また、枯れた幹周が 150cm 程度の山桜も見つかり、手入れの必要性も感じたと思います。結局、約 3 時間程度の調査で、40 本弱の調査を行い、まずまずの成果を上げることができました。

現在、GIS グループに山桜の位置情報の図化作業をお願いしています。

次回の山桜調査は、平成 21 年 12 月 4 日(土)に予定しています。安全管理に万全の注意を払い、ナンバリング目標の 1000 本にむけ、着実に一步一步近づけていっていきたくと考えています(文責：矢ヶ部)



記念すべき N01 の山桜

柴北川 山桜調査表(個票)						
NO:	種別	山桜	その他()	調査日	平成	年 月 日
場所	GPSデータ:					
木の特徵	(枝・葉・根の状況等、判断基準の表を参考に)			樹齢:		
	生息状況	良好	少し難なり	枯れている		
	(記載)					
樹高	m	幹周り:	m	樹径:(最大	m)(最少	m)
周辺状況	(地盤の状況:土壌や岩、傾斜、排水、下草の状況 等)					
手入れの必要性						
写真	撮影日	平成	年 月 日	撮影日	平成	年 月 日
	(全体1)			(全体2)		
	*できれば開花状況					
	撮影日	平成	年 月 日	撮影日	平成	年 月 日
	(枝・葉の部分)			(根の部分)		
*葉のサンプル採取を忘れないこと						
ネーミング	可 不可	(考えられるネーミング:例えば、「 の桜」「 ザクラ)」				
その他						
調査者・記入者						

調査票



調査前の調査隊の勇士の姿